



### 表現しないという表現

幼児期や学童期も含め、保育・教育の世界にいと、絶えず、表現活動のあり方について考えさせられます。

運動会、作品展、発表会なども代表例なのですが、園生活を通した子どもと保護者の接点には、そのほとんどが「表現活動」を披露する場が設定されていることがわかります。

私たち大人は、なぜこれほど、子どもたちの表現の場にこだわるのでしょうか。私たち大人どうしは、友人や知人に、これほどまでに何らかの表現パフォーマンスを求めることなく、人間関係を築いています。それはきつと、巧みな言葉の表現や、幅広い選択肢の中から選ばれた行動を見ることで、その考えや価値観を汲み取っている



からなのかもしれない。そう思ったもの。が、まだ見えにくい子どもたちが、一体何を思い描いて生きているのか：それを知りたくて、感じたくて、表現の場を求めているはずだと思うのです。



ましてや子どもにとつては、人前がはずかしいなんて当たり前、ごっこや劇遊びは即興だし、絵画や工作なんて気が向いた時に思うがままに楽しむもの。全ての

のパフォーマンスは、まだ自分に向けて繰り広げられている時代なのです。

そういう意味では、子どもたちは、まだ未熟なパフォーマンスなのかもしれないが、立派な「表現者」であることには変わりありませんので、そこはぜひ、注意深く見守っていきたくてです。なぜなら、子どもたちだけでは、まだまだその環境や材料を準備していくことが難しく、そして、ちょっとした段差を超えていく時にも、私たち大人の下支えも必要になるからです。

運動会に続いて、先日のお楽しみ会でも、新たな表現の場を目指し、色々な試みを取り入れていきました。



「情熱大陸」「カンブリア宮殿」「ガイアの夜明け」「プロジェクトX」…人の活

現の場だったような気がするので。

●編集 誠美保育園  
●発行人 折井誠司  
●印刷所 誠美保育園  
●発行所 社会福祉法人 誠美福祉会  
〒192-0364 東京都八王子市南大沢5-1-2  
電話 042-675-1551  
ファックス 042-677-5643  
E-mail sebi@nokken.jp  
http://nokken.jp/

園長 折井誠司

動プロセス(ドキュメンタリー)には価値観や考え方、その人らしさが滲み出る：日常を生きる姿こそがパフォーマンス。人前が苦手だって、手先が不器用だって、速く走れなくなると、本当は誰もがカッコいいパフォーマンスなのだと思うのです。(皆さんだって！)

